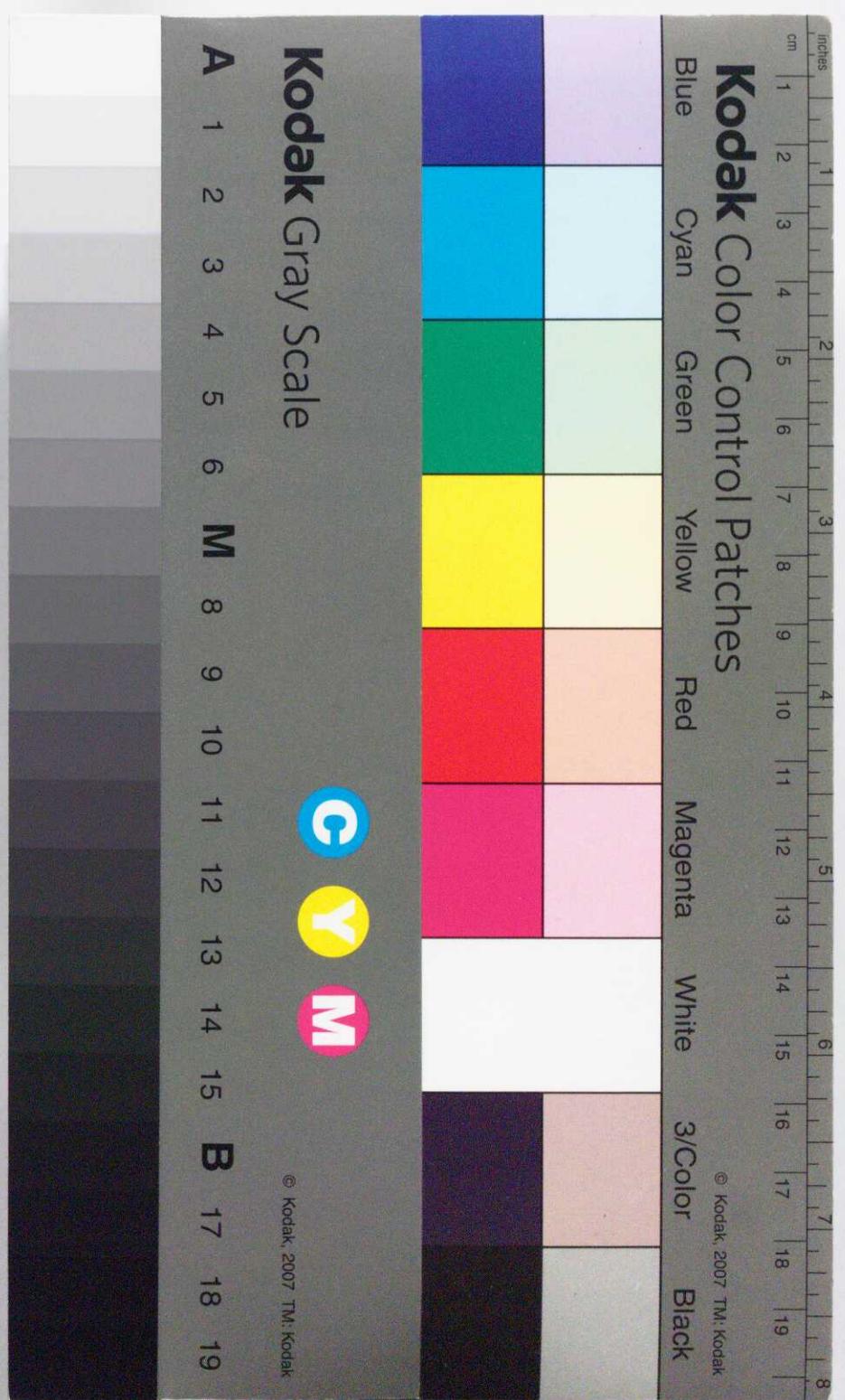
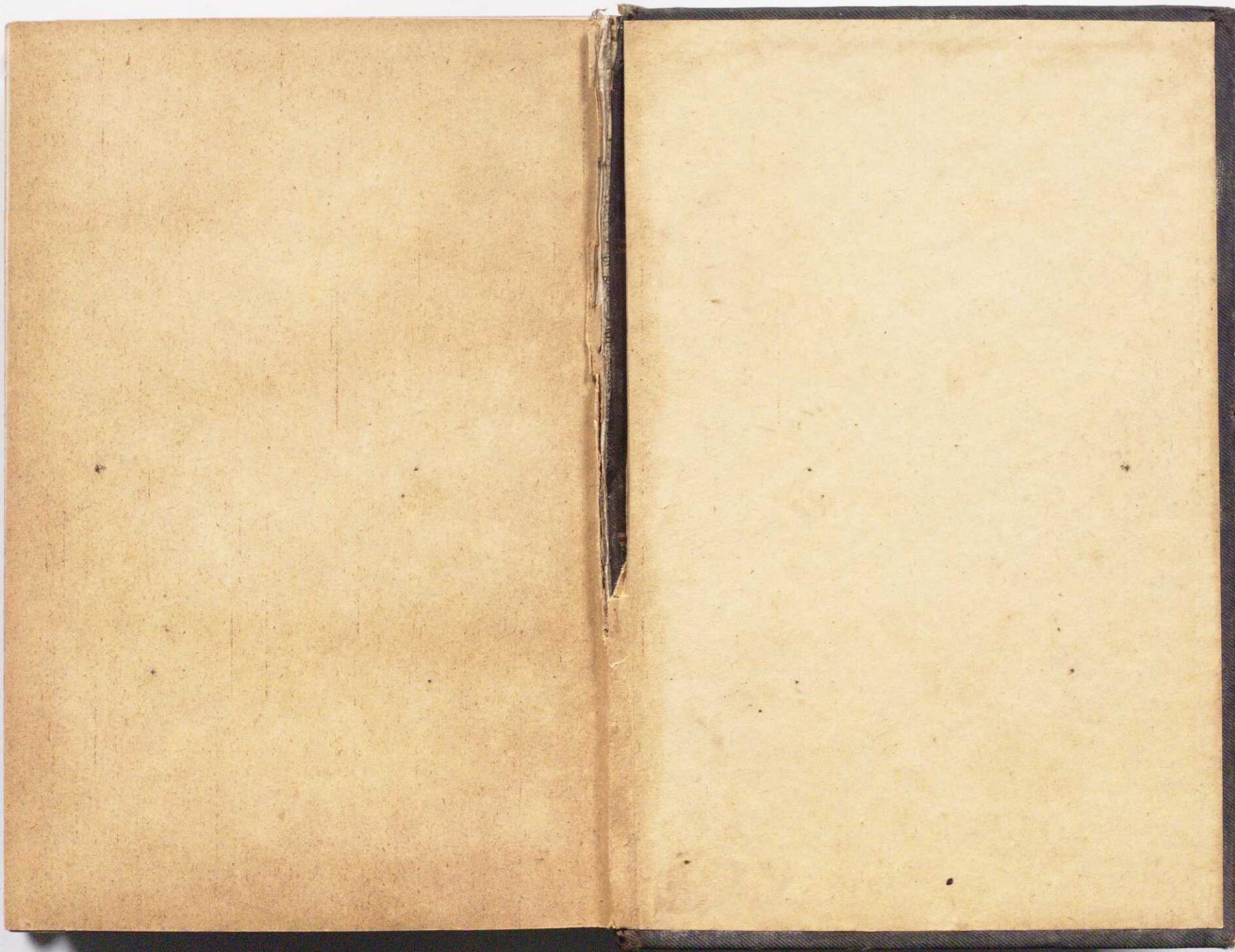


2 JAPAN  
3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2



C Y M

© Kodak, 2007 TM: Kodak



明治二十七年

共同傳道會社出版

# 新約全書

耶穌降生一千八百九十四年

米國バプテスト

## THE NEW TESTAMENT

IN VERNACULAR JAPANESE

FROM THE

Oldest Existing Greek Manuscripts

BY REV. NATHAN BROWN, D.D.

MISSIONARY OF THE AMERICAN BAPTIST  
MISSIONARY UNION.

REVISED BY REV. T. KAWAKATSU.

KANA EDITION.

THE YOK HAMA SEISHI BUNSHA.

1894

博  
雅  
全  
集



まくらの でん あくらん もよ

ぶらはむのあそん、だびでのあそんをすきりすとのけり。ゆだとそのきやうぐりをうめり。ゆだたまぬよりてれづとざらをうと、それづへづろんをうと、へづろんらむをうと、らむあみあだがをうと、あみあだがあおよんをうと、あおよんざるもんをうと、ざるもんらはがよよりてほあぞをうと、ほあぞるてよよりておべでをうと、おべでぬ三いをうと、ぬ三いだびてなうをうと、だびてうりやのつまありーをくみよよりてそろもんをうめり。そろもんれはべあむをうと、れはべあむあびやをうと、あびやあさをうと、あほあやをてをうと、あほあやをてよらむをうと、よらむうじあをうと、うじあよたむをうと、よたむあはむをうと、あはむひぜきやをうと、ひぜきやまあせをうと、まあせあもんをうと、あもんよああをうめり。ほびるんようくわくとまよおあゑとにやとそのきやう

さりを うそ、<sup>12</sup> はびろんよ うづくねー のちあこにや おやるてるを  
うそ、おやるてる ゼるばべるを うそ、<sup>13</sup> ゼるばべる あびうでを うそ、  
あびうでえとあきむを うそ、えとあきむあざるを うそ、<sup>14</sup> あざるざとく  
を うそ、ざとく やきむを うそ、やきむえりうてを うそ、<sup>15</sup> えりうてえとあ  
ざるを うそ、えとあざる まけたんを うそ、まけたん やこぶを うそ、  
<sup>16</sup> やこぶ まけたんを りと よせふを うめり。この まけあり まけす  
とも とあくる 無す むあれ まめくり。

<sup>17</sup> やくの ごとく あぶらはむ ありだびで よりくら おもれの れきさうい  
すべて おうよだい、だびで あり はびろんよ うづくねー おとおうよ  
だい、あくばびろんよ うづくねー あり きりすと おと おうよ だい  
あり。

<sup>18</sup> さて 無す まくすとの むあれ まめくること まの ごとく あります。  
その まくす まくす あん よせふ とりの あげけーと いあど トめりり せざる  
まくす まくす みたまよ ありと えくまーと その こと あとそれく  
まくす まくす 19 きのと よせふ トマーと もの あれど これ あとまよ

まぐらへゆることを このよす、ひそくより 無んせんと ねめくり。  
<sup>20</sup> やくと よせふ この ことを めんぐへ 見る うちよ まよ、かまの  
つうひかれの ゆめよ あとそれて いひけく、だびての よせふよ、  
あんちの つよ まくす あとそれて いひけく、だびての よせふよ、  
ある とくらの ものひ きふき みだよ ある あり。かれ むすおを  
うあん、<sup>21</sup> その あを 無すと あげくべー・りうんと あれど かれ わ  
れの ふみを つと あり すくひ まめく だい。<sup>22</sup> すべて この ことの  
ありくへ おげくべー やよ ありと きみの りひ まめく こと まよ、  
<sup>23</sup> まよ、 まくすめ まくすと むすおを うあん、 その あを いまねぐると  
あげくべーと あよ やあを せん つめ あり。 その あん これとと  
ともよ を る かまと りくら ひと あり。  
<sup>24</sup> つゆよ よせふ めまめ おき かまの つうひの らひせー ことよ  
あくまうひ そ の つまを めとりー 25 むすおを うむ おと まよ  
ぎりき。 その むすおを 無すと あげく だい。

## 第一章

さすがに一とくよ、もうせてもちひぐーよりあるさきむなきなりて  
りひけりん、ゆだやひとのこくとそもあれさきひーゆのへりげ  
くよりあすや。されどひぐーよおりてそのやーをミーよよりて  
かれをもりせんさめよきくれり。<sup>3</sup>へろてこくうかれをさみてうち  
さくらり。あるさきむのひととくさくうくへり。<sup>4</sup>さとへろてこく  
すべそのさくらりーとさみのあくやくをあつめそきりすとの  
もある。ざきととくをさくねり。<sup>5</sup>されどりひけりん、ゆだやの  
べてきへむよもあるべー。りうふとあればあげかくやよよりて、  
ゆだやのちのべてきへむよ、あんぢりゆだやのねもあるまちのうち  
よそりとちりせんゆのよあくよ。<sup>6</sup>そんあんぢのうちより已ぐ  
いせらえるのさみをやーあふべきひとりのつらさりぐべーと  
さるされられがあり。

さかへろてひくらよはくせてもちをよびてそのやーのあくやく  
とくをこくうよとく、つひよかれじとべてきへむよつらもとそ  
りひけりん、あんぢりゆだりをさくらがのことをくもーくさくね。

されよあそびされよきくりつけよ、されよあくゆきとほりす  
べー。<sup>7</sup>されどこくのねあせをさみてあゆのうけーせーぐ さよ、  
ひぐーよおりてさくらるやーされよさくらもゆきをさくらがの  
をるところまでりくらてそのうくよとくありぐり。<sup>10</sup>されど  
このやーをみてようぶことひとくよあとす。<sup>11</sup>つくりよりくよ  
りりてさくらがのそのさく。まりあととくよをくをミーぐひれ  
あーとられをさくらくらのをひくらとこくうだん、あくうく、  
ゆのゆくあどのれりゆくをさくばり。<sup>12</sup>ほくせてもちゆめよ  
へろてへゆくらるあうれと。さみのつけをやくせりてわうのさく  
ありおのれのさくらくへくらり。

<sup>13</sup>かれどさくらーぐ さよ、さみのつうひよせふのゆめよあくを  
れてりひけりん。おきてさくらがとそのさくをつれえおぶとよ  
のうれどこくあんぢよつぐるまでそこよとくすれ。そんへろで  
さくらがとさくらしてさくらがとすれがり。されどこくよおりと  
よせふねがとよるさくらがとそのさくをつれえおぶとよゆめ

へろての おする あす めしよ とどありて、<sup>15</sup> され えおぶと より  
せうむすを よび いだりと あげるへやよ よりと さうみの りり  
ことをよ めめくり。<sup>16</sup> さて へろて はうせよ あざむくねーを まとりて  
もあそび つらり つりよ ひとを つらもーと はうせ より こまうよ  
きくらぐる こまよ あくたかと べきへむと その おうちひの うちよ  
きる ふさの より りうの そととの おどゆを ことじとく こうせり。<sup>17</sup>  
これ あげるへや あれみやぢ、 めめくと ねわひ ある あげきの  
こゑ あまよ かくくり、<sup>18</sup> すみもむ らける その こどもの くあよ  
あげき ある こどもの あかは よりと あぐまみを うけざりと  
りひーことは のめくり。

<sup>19</sup> へろて あまよ けねば まよ。 やまの つうひ えおぶと おせふの  
ゆめよ あとそれと いひけめ。 <sup>20</sup> おきて さくさあおと その そくを  
つれて いせらえるの ちよ ゆけ。 やまあらの りのうを ゆとむる  
やめ そや あまくり。 <sup>21</sup> つりよ よせふ おきて さくさあおと その  
そくを つれて いせらえるの ちよ いひくらげ、 <sup>22</sup> あるけふう その ちよ

へるてよ めめくと ゆだやを あはくすと かくくねば そくよ ゆく  
ことを ねれり。<sup>23</sup> あくまよ ゆめよ カまの つけを めうむりと  
せうむすを もとよ さけ あざれとりよ あくよ いひくと そくよ  
すめり。 あくして、 めめく あざれひとつ あがれると あがれんへよ  
すめく いひくと そくよ とくくり。

## 第二章

その ころ あじめびと よはね きくり ゆだやの せよ わりと  
のじ つまくと いひけめ、 あんじと くひ あくくめよ、 てんの  
まくじとく ちくきよ あり。 これ あげるへや あさやぢ、 せよ よぶ  
ひとの こゑ あり、 いもく、 さうみの そくを そくへ、 その こくくを  
あくすくよ せうと いひくと そくの ゆの あり。 <sup>4</sup> その よはね  
くよ はくさの けだらぬを ま、 こーよ めめの ゆびを あめて いあ  
どと はくさの あくくめよ とせり。

5 その ころ ある さを むおあびゆだや だう ある よるだんの あはくの  
ひとびと いひくと よはね りくらり ねのぢ つまを さくくせー よるだん  
が そくを めれ あり あじめを うけくり。 よはね あじめよ きくくねる

おもろのをりきひびとくさどめいじとをみてめねじよりひけみ、  
まむしのをもんよ、これりきくじとをするみのうりをまくべき  
ことをあんぢよつけしや。8 さればくわあじゆめよせあり  
あるみをむすぶよ。・あんぢよこれとのせんぞよあぶらはむ  
ありとりふことをこもるよりだくあられ。これあんぢよ  
つけん、わざんこれのりーをもあぶらはむのあそんとあー  
うるあり。10 そやをのんれのねよつけられり。ゆゑよよき  
みをむすをさるせんことごとくまうれてものあらよあげりれ  
とうもあり。11 これんあんぢよをくひあくまめのくめよ三げよ  
あうめり。されど口があとよきかくるものにこれよりまさりて  
り草あひあり。これのぞうりととくすくくとくす。かれん  
あんぢよをきよきみたまおまびゆよあうめくまもん。12 その  
てよみを めうてありくくそのうちをきよめ、わざん あう  
めくまよおまめ、めくひきくさるゆうをめきくまもん。  
13 きのこうあすよはねよよりてあうめをうけんくめよめきくい

よりよるだんよりひりきあひーぐ、14 よはねりあうてりひけみ、  
これこそああよよりあうめをうくべきものあらよああよこれよ  
きくまよから。15 あすくまくと、りまゆくせ、これとくくすべ  
そのくまくきことをつとすべきありとりひければよはねこれを  
ゆくせり。16 さてあすあうめをうけてくまくよしづありあぐる  
ときくま、てんひひけーぐのれわざのみたまのもとのごとく  
くまくしてそのうくよきくまをくまくへり。17 あくてんよりくゑ  
ありて、これきがあうめをもきあひだりよくくぶとくうのもの  
ありとりくり。

**第四章** そののちあすぎんまのあどもくよこくうみくねんくめよ  
みたまよ そらびうれてけよゆまーぐ、2 あとう あち あとう や  
あとうせすとつゆようゑくまくへり。3 さてあどももものゆれよ  
きくりてりひけみ、あんぢよわざのむすああとばこれとの  
りのけんとあるやうよめのせよ。4 あすくまくとひひけみ、  
ひとくほんのまよそりがく、くわあるのことをよもくわ  
わざの

うちよりりげることをよすてりくべーとあるまねり。5  
つひよせんをあすをかみみゆきみゆのりくめ  
きよくみをりけり、6 あんぢ ゆーかみのむすみあと  
おのぎみをあげおとせ。そん、わとあんぢのくめよそのつうひ  
くちよめりするよありわれとあんぢのあいりくよあれさる  
やうでなとあんぢをかみくとあるまねり。7 あすこうくと  
りひけり、あんぢのかみるかみをこうくとべうとすと  
あるまねり。

8 せんかあるわれをひとくわきやあよつれのやりてんうの  
くみぐるとそのかみくとをみせりひけり、9 あんぢ ゆー  
ひれかとこれをもりせばことじとここれをあんぢよあるく。  
10 あすこれよこみへけり、せたん、ありそけ。そん、あんぢの  
かみぐるかみをもりしてこれよのこのうべーとあるまねり。  
11 こみよおひとせんきわれをもあねーぐみよ、てんのつうひくち  
きくりてやれよつうくり。

12 あすよはねのとくわくことをかみてけりふひよのく。  
13 のちあざれをせりぜがろんとあがたきとのくわくとみくわみの  
わとりあるかせゐあうむよりくりてそくはすとまへり。14 これ  
よけんくわくみやよりくと、よるだんのむくううみのわとりある  
せがろんとあがたきのち、15 けとくのがまうすをもくとまよ  
をるたうおわひあるひくりをみり。16 ちのわげのとくよ  
ざするひとびとよひくりあぐるありとひもねしとけり。  
17 そのころよりあすも下りてのくわく、あんぢくわくあと  
くわく、ちのあくりどとくちくわくありとひもねしとけり。  
18 われひきといかみくわくとくわくあくととくよきくわくの  
あくりすをもべてかとりふあもんとそのきくわくのあんてれと  
あくをみくわくうりをみくわく。われとくわくすをどるもの  
あり。19 あすのれよひくり、われよおなぐひされ。われ  
あんぢをすをどるものよあんぢをあくと。20 われとくわく  
ちよくとをすとくあすよあくとくわく。21 あくすとくすとく

アハリーハヤウのキムラジルのアハリ すあをらゼベダリのむすみ  
やこぶヒーその キムラジル よはね ちみ せべだいと ともよ あねもて  
あみを つくろひ そめを みて これを あじければ 22 やれども トド  
ちよ あねと ちみを のみて あすよ あらびひゆけり。

23 無す つりよが里トヒを あおねくめぐりその うきのじよとて  
をへん からみよりりどとの さうもりの おとげれを のじある  
たまの うちよ ねりて ゆうもうの やすひ ゆうもうの せうじひを  
りゆせり。 24 さて 無すの きよえあおねくせりや ひうおりければ  
ひとびと われよ さゆきの やすひと うかを せうじよ もの  
および あくまよ とりくわねくる もの、 せうじひ、 ちうきやまを  
ことじとくつね まくらり一ぐ われとせりや くまぐり。 25 あくして  
がまふひとでめほり、 あらざをむ、 ゆだや および よるだんの むうふあり  
ねわくの ひとびと われよ まくらぐり。

卷五

けりん、<sup>3</sup> こううへりきる ゆのり さりをひあり。てゐるみく  
まれ ゆれとの ゆれあればあり。<sup>4</sup> めあーせ ゆのり さりをひあり。  
その ひととあぐらめくわればあり。<sup>5</sup> あうを ある ゆのり さりをひ  
あり。その ひとと ちを つゞ べければあり。<sup>6</sup> こうう うゑ ゆを  
きそ かどーきを あくふ ゆのり さりをひあり。その ひとと あく  
ことを うべければあり。<sup>7</sup> あもれむ ゆのり さりをひあり。その  
ひとと あもれを うく べければあり。<sup>8</sup> こうう いきぎよき ゆのり  
さの さりあり。その ひとと かみよ まごゆ べければあり。<sup>9</sup> まが  
くを もとむる ゆのり さりをひあり。その ひとと かみの あどりと  
とあくどる べければあり。<sup>10</sup> かどーき ことの さめよ せめくも  
ゆのり さりをひあり。てゐるみくは その ひとの もれあれば  
あり。<sup>11</sup> ひとびと さく さめよ あんぢとを のぞり せめくら  
りくもりそ ゆうゆうの あーき ことを もりそ あんぢとを そーる  
とき あんぢと さりをひあり。<sup>12</sup> よろそび よろそび、そん てゐる  
おりて あんぢと むくひ おろひ あればあり。あんぢと あり

○よりさうさう五夷やう

5

十四

おまかの よげんをやくわらめくの ひととせめくねり。

- <sup>13</sup> あんぢぐりせりの もやあり。されど おやめーあぢをひを  
うへあそびあふを ゆりて これよ おやあぢつけん。そのちら  
きとよ すくられ うへ ひとの あーと あまくみの わら あふむ  
よう あー。 <sup>14</sup> あんぢぐり よの ひうち あり。やまの うへよ うち  
する あらへ めくわらめくとをえす。 <sup>15</sup> あく ひと あうりと とくーと  
これを あすの あへよ おうす、うへ うへの うへよ おまこ うへよ  
ある すじの われを とくす あり。 <sup>16</sup> めくの ひとく ひとびと  
あんぢぐの よが おとあひを うへ てんよ あんぢぐの ちくを  
あぐむる やう あんぢぐの ひうちを あんぢぐの あくよ あぐむるせ。  
<sup>17</sup> ほぐ きくりへ おまこ あらひよ おけんをする うめ ありと  
おゆふ あうれ。ほぐ きくりへ これを すくはよ あくせ、とぐる  
くめ あり。 <sup>18</sup> これ あくとよ あんぢぐよ つけん、てんの つけざる  
うちよ おまこへ とげ つくさすと その ひのくえ ひのくえ  
する こと あー。 <sup>19</sup> のまよ くわねすと お これの ひと ちのくえ

おまかの ひととを やがり やへ ひととす めく きーゆる ゆのへ  
てんの みくまみ オリヒト ちのくえ ゆのと ひりまる ベー。されど  
これ あくと ひと ひとを くーめる ゆのへ てんの みくまみ オリヒ  
おわひ ある ゆのと ひりまる ベー。 <sup>20</sup> これ あんぢぐよ つけん、あん  
ぢぐの うへーと こと あくと ひと せりきい ひとの うへーと ありも  
あくと あくと あくと あくと てんの みくまみ うへーと ことを えす。  
<sup>21</sup> むうーの ひとよ、ひとと うへー すべくとす、あく うねすと  
ひとと うへー する ゆのへ うねすと うねすと うねすと うねすと  
あくを あんぢぐ きけり。 <sup>22</sup> なれど これ あんぢぐよ つけん、これ  
よしゆ 「ゆゑあーよ」 おやうとを つきどかる ゆのへ おもきよ  
あぐくとん。あく うねすと おやうとを あくと うと うと うと うと  
ひやうぎよ あぐくと、うと うと うと うと うと うと うと うと  
うと。 <sup>23</sup> この ゆゑよ あんぢ そくへ われを せりうたよ もち  
のまよ とす そくよ そくよ そくよ そくよ そくよ そくよ そくよ  
ことを おゆふ つけざる <sup>24</sup> そくよ われを せりうたよ あくよ のまよ

○ まじめども五吉やう 5

十六

あるうちもやく  
あるうちから ものと とゆみ みゆみ ある  
やまじげよ。おもじへ うらうら もの あんぢを あんぢゆくよ  
きよし、あんぢゆく あん あんぢゆくよ きよし、あんぢ  
らうやよ いねじる ベー。<sup>26</sup> これ あんじよ あんぢよ つけん、りち  
ゆんの せよ あんぢ つくあをすかぐ そく おりりげる こととを えぞ。  
<sup>27</sup> やふいん ある あうれとりくる こと あうを あんぢよ まけり。  
されど これ あんぢよ つけん、されよを るあかだまうを ゆるわ  
くそんを あぐああべ その ゆめくらうの うち まじよ これと  
めぐりん あるる あり。<sup>28</sup> ゆー みぎの め あんぢを つあぐくを あべ  
ゆき うづこ これを すくよ。そく ざまの うちの ひとり  
やうびゆく めくらう ぢぢくよ あけりれくよ おりへ あんぢの  
うめよ ようる ベー。<sup>30</sup> ゆー みぎの て あんぢを つあぐくを  
あべ きりて これを すくよ。ざまの うちの ひとり やうびゆく

めぐらむうぢどくよひるありへあんぢのさめよすうるべ。  
31 ある、されまくもそのつをりどす めぐら こねよりとく  
トやうをあまくべーとりとれり。32 されど されあんぢよ  
つけん、されまくもみのうのけあとせとそのつをりどす  
めぐら これよめぐらんをするあり。あるそのりとくせれする  
をとくをめとるめぐら みるするあり。  
33 ある、ひとつりのちうひをさうるあられ、33 あんぢの  
ちうひをかまよととづとむくしのひとよりそれることあるを  
あんぢときけり。34 されど されあんぢよつけん、あるのちうひ  
をもさうるあられ。てんをさてちうひあられ、これかまの  
みくらるあればあり。35 ちを さてちうひあられ、これかまの  
あ一さうあり。あるさをむをさてちうひあられ、これおわひある  
さうのふゆうあり。36 あるあんぢのめしをさてちうひあられ、  
これあんぢひとすがのけめあうくあらひくさうくすること  
あるをされぐあり。37 され あんぢのことをあらりあらり、

りありあとせよ。これよりすぎくらへあーきよりりげるあり。  
38 めのめをりよめ、ほのめをりよはとりとれことあるを  
 あるぢとかけり。39 されどこれあるぢとよつけん、あーきものよ  
 てきうのするあられ。これらあるぢのミヅのやうをうづば  
 やうのやうをゆわねよむけよ。40 これらあるぢをうづばと  
 おぐぎをとくとせばうもぎをゆわねよとくせよ。41 あるある  
 ちよりなりゆくことをおゆるものあーきこれととくよあり  
 ゆけ。42 あるぢよねぐふものよくあるくよ、やうかとするひとを  
 ありぞくるあられ。

43 あるぢのとありをりづくし、あるぢのあだをうづばと  
 りもれことあるをあるぢとかけり。44 されどこれあるぢとよ  
 つけん、あるぢのあだびとをりづくし、あるぢとをせむる  
 ものもくめよりゆれ。45 さくべあるぢとへてくよりゆすあるぢ  
 とのちのあだゆとあるん。かれへそのひをあーきものと  
 おきものとくよのひと、あるあめをくづべきものとくび

うづばるゆのとくよあだせくまくべあり。46 ゆーあるぢとを  
 りづくしゆのの三をりづくしよべあるのむづのあくさんや。  
 うづばりゆゆのとくよあすよあくすや。47 あるあるぢの  
 きやうざりゆのとくよあくさびひとよりあるのあきれる  
 ことあるぢよ。いとくもゆのとくよあすよあくすや。48 この  
 ゆゑよてくよりあすあるぢのちのあくさびひとある  
 ぢよもあくさびるべ。

**第六章** ひとよみじれんくめよあるぢのくじくことをその  
 まくみてあるぢやうつづくめ。あくとぎれでてくよりあすある  
 ぢのちのちのよりむづひをえざるべ。このゆゑよあるぢ  
 わどくとをあすときひとよりわうれをえふとくくのどうや  
 ちあるみてだせんくじゆのあすひとあるぢのまくらの生を  
 あくすあられ。これあととよあるぢよつけん、ゆれぐすぐよ  
 そのゆづひをえざり。3 されどあるぢわどくとをするときひ  
 みぎのとがあすことをひづりのとよもくとしめすしてそのわど

このゆゑよりあらはせよ。4 まんべ ゆゑむるよ み まゆらる  
あらはのちもあらはよ むそひ まゆらる。

5 あらはト りのるとき ぎせんしやの ひととす あすあうれ。ゆゑ  
といひとよ みそねそば さめよ うなびだくや ちあくの すみよ  
うちてりのることを こめむ。され あくとよ あらはトよ つばん、  
ゆゑどす その むそひを えくり。6 されど あらはりのる  
ときひをらあるへよ ひり とを とがて ゆくねうみよ いすす  
あらはのちもよ いのれ。まくば ゆくねうみよ み まゆら あらはの  
ちも あらはよ むそひ まゆらん。7 あく ひのるときひ ひトふの  
でとく ひくらうる くりうへ ひととを むちゆる あうれ。けだ  
ゆゑどく ことの おわせよ おりて きくねふと ねゆふあり。  
8 あらはト ゆゑよ あくと あらば あらはとの ひりよの  
ちも ある かみ ねぐをざる まゆら あらはの ひりよの  
ゆゑを あり まゆら あり  
9 このゆゑよ あらはト ゆくの ひりよの ひりよのれ・ まゆら あく まゆ

10 ゆゑの ちもよ、みを あくめさせ まゆら。10 みおりひととを  
のぞせ まゆら。みぞうの ちもよ ある ひとくちもよ あく ま  
ゆら。11 ゆゑとよ みちもよの めを こゑまちも まくじけ まゆら。  
12 ゆゑとく わりびとを ゆゑせ ひとく これとの わりめを ゆゑ  
まゆら。13 ゆゑとくを こゑうみよ みちびくす、あーきより すくひ  
り まゆら まゆら。

14 あらはト ゆー ひとの あやおちを ゆくば てんよ いあす あら  
はの ちもよ あらはとを ゆく まゆら。15 さむど ひとの あや  
おちを ゆくば まゆら あらはとの ちもよ あらはとの あやおちを  
ゆく まゆら。

16 あらはト だんトき する とき ぎせんしやの ひとと あく まゆらを  
するあうれ。ゆゑとく だんトき することを ひとよ あく まゆらとを  
ゆゑとく まゆら する あり。ゆゑ あくとよ あらはよ つばん、  
ゆゑとく まゆら その むそひを えくり。17 されど あらはだんトき  
するときひ ゆー あがとを つけ つかを あく。18 されば

あなたがのだふとまへひとよあらわれゆそめくわくゆゆ  
あらわらのちよよあらわれん。あらはそめくわくゆゆ  
ちよあらわらもくひくわくえん。

19 あんぢとおのれのまめは志とくひ、さびしさりあるぬすび  
とのうがらてぬすむところのちよかにんをなむかるあられ。  
20 おもいひゆさびくはりゆあくまくぬすびとゆうがらてぬすむ  
せるところのてんよううらをなむべー。 21 そんあんぢの  
さうとのあるところ多くあるそよあるべければあり。  
22 そのとゆしひめあり。やーあんぢのめそゆきりとせば  
ゆくはうあくまくとん・されどあんぢのめあくらうべやう  
がうくはうるべー。 23 ゆゑまあんぢのうちまあるひうりくと  
うくばそのくわことくりをうりだ。

あらをも。25 このゆゑよされあるぢよつけん、ひのちのゆゑよ  
あるをそしめ、あるをのと、あるゆきぐのゆゑよあるをまかせと  
おゆひ 可びしむ あられ。りのちにそひあれより ありあり、ゆきぐ  
きゆれ あり あるをまよ あらすや。26 そしめのとりをそよ・それへ  
あゆせす、ゆりもせす、ある そしめ ふくもんす。おうゆよ  
あるぢとのてかのちもこれをやしより そよ。あるぢとのそれ  
ありもるり あるれる ものよ あらすや。27 あるぢとのうち それれ  
おゆひ 可びしむて そめのひちをりのへやくよしゆのむすることを  
をるや。28 あるあるをきゆせることを ねゆひ 可びしむや。それ  
ゆりへりくよして そくつうを おゆひ そよ。それへ そくつうを  
つゆがす。29 などど されあるぢよつけん、そろもんへそひぐのの  
きをそしめのとす そよるゆそのよそやひこのものひとうよ おゆを  
せりき。30 かしへけふらりと あすゆおどよ あがひれくわく お  
くさうゆ つく きせ くわくべ あして あるぢよ きせくわくべや。  
あく あくうう うすき ゆの めま。31 ゆゑよあるをそしめ、あるを

のと、あすをきんやとりひておゆひよじとあうれ。<sup>32</sup> これとく  
とあひトシのゆとむるゆ代あり。されどすぐとこれのゆ代と  
あんぢくゆりりようあることへあんぢどのてゐのちもこれを  
ありとあふ。<sup>33</sup> あんぢとまげかみのまわりととそのこづけ  
とをもとめよ。さすればすぐとこれのゆ代へあんぢとよくもく  
くるべし。<sup>34</sup> ゆゑよあすのことをおゆひよじとあうれ。あすの  
ことへあすおゆひよべし。りかよちのこづけととくにそのひよ  
くねり。

## 第七章

あんぢとひとをさむびくあうれ。おそくとくへあんぢとも  
あくおぞくねん。<sup>35</sup> そんあんぢとくさむびくとくのさむびを  
ゆりてあんぢともおぞくねん。あくあんぢとくもくとくの  
もくりをゆりてあんぢとももくりあくくくるべし。<sup>36</sup> あんぢ  
きやうさりのめよあるちりをこそおのれのめよあるうきりを  
ねがくばくへあんぢよ。<sup>37</sup> あくおのれのめようきりのあくよ  
りうできやうさりよむくりて、あんぢのめよりちりをくねよ

とくせよとくふことをえんや。<sup>38</sup> きせよくしゆよ、まげおのれの  
めよりうきりをとれ。さすればあんぢきやうさりのめより  
ちりをとりうるやうあきくよみゆべし。

<sup>6</sup> いぬよおなまゆれをあくふるあうれ、ふくのまくよあんぢ  
とのあんぢのをあぐるあうれ。ねくくくへそのあくよとこれを  
あくゆくふりくへてあんぢとくをゆくやぶくん。<sup>7</sup> ねぐくよ、  
さくべあんぢよあくくとねん。<sup>8</sup> さくべあんぢよひくうねん。<sup>9</sup> そんすぐてねぐく  
ゆくへえ、さくべあんぢよひくうねん。<sup>10</sup> そんすぐてねぐく  
ゆくへり。あんぢのうちくねりそのむすあのはんをねぐく  
ゆくへをあくくくよ。<sup>11</sup> あんぢとあーきゆのあぐとおどよよよま  
あくあることをあくべあーきてくよりすあんぢのちくへ  
ねぐくゆのよよきゆれをとくをぎくよ。 <sup>12</sup> ゆゑよあんぢとあ  
くよひとのあんぢよおとあくとくうをやのすることへひと

おゆ これを おとおへ。これ おきいと おげんじゅの ところ あり。  
 13 セ 宝 命 もん より いれよ。わちびよ ゆく ところの もん  
 ひろく、その みちへ おわひ あり、そぞよりる ゆの おわへ。<sup>14</sup> いの  
 ちよゆく ところの もんへ 「ひらすゑ」 せよそ、その みちへ せよそ、  
 これよ あふ ゆの すくひの め。

15 ひつての すぐらを きかねども うちへ まけき おわうと ある  
 あせ よけんしやを つましめよ。16 あんぢと その むすぶ ところの  
 みよ よりて これを ある べ。ひとりを より あだうを とり、  
 あだひへ あだへ やり ひちども とるや。17 すべと おき 犬へ おき  
 みを むすび、あーき 犬へ あーき みを むすぶ あり。18 おき 犬へ  
 あーき みを むすぶ こと あくをす、ある あーき 犬へ おき みを  
 むすぶ こと あくをす。19 すべと おき みを むすむ する 犬へ きト  
 れて わの あくよ あけ いれくる。20 この ゆゑよ その みよ よりて  
 これを ある べ。21 これを よびて おこなふ、おこなふと いふ ゆの ことを とく て ある

みくみく りふよ あくよ、あく てくよ いはず おぎ ちの むねを  
 おとおふ ゆの の と いる べ。22 その ひねらきの ひと おれよ  
 めぐりて、きみよ おこなふ、おれよ みあよ よりて そし、みあよ  
 よりて あくよ おひりく、みあよ よりて おわくの あしき ある  
 おきを あせしよ あくすや と いもん。23 その とき おれ われとよ  
 つけと、おれへ やうと ある おきを ある く。あーきを おとおふ  
 ゆのよ、おれを まわれ されと いもん。  
 24 その ゆゑよ されよ おれと おれ おこなふ ゆの ひの いの うくよ いのを おこなふ ゆの ひの いのを おこなふ ゆの ひの ひとよ  
 あだよ あだよ いの うくよ いのを おこなふ ゆの ひの ひとよ  
 いのよ あだよ いの うくよ いのを おこなふ ゆの ひの ひとよ  
 おれ おれ あだよ いの うくよ いのを おこなふ ゆの ひの ひとよ  
 を おこなふ おれ おれ あだよ いの うくよ いのを おこなふ ゆの ひの ひとよ  
 ひとよ あだよ あだよ いの うくよ いのを おこなふ ゆの ひの ひとよ  
 その いのよ あだよ あだよ いの うくよ いのを おこなふ ゆの ひの ひとよ

<sup>28</sup> つひよをすこのれのひとををもりければおわせりのもの  
そのをくへよおどりまわり。<sup>29</sup> そんちあはやうの ごとくあはす、  
けんるある ゆのとひとよをくへ こまくべあり。

**第六**  
あす やおより さざる ときおわせりのひとひと わねよ  
あくぐくへり。<sup>2</sup> さよ、ひどりのらひびやうやきめねよ さくらひね  
あくとひ けく、さんま、ゆーみどりよ めあもべ されを  
きくあすこと うべ。<sup>3</sup> あす どとのを これよ さむりて、  
せう こくちよのあふ、きくあれとのくあひければ そのらひ  
びやう くらむよ さくらひ あれり。<sup>4</sup> あす あくこねよ ひけく、  
つゝんを ひとよ つぶる あられ。さんゆきと さくしよ おのれを  
みせ やくひとよ あふうことを くらる ためよ もうせのめりト  
くる そあへ われを さくばよ。

<sup>5</sup> あすめをるあうむよ ひりりよ ひやくみの さくらひやう さくら  
ねくを ひけく、 さよまく ひくを あそりく  
よ あー るそ そあくび さく一めり。<sup>7</sup> あす わねよ、 わねゆきと

りゆきふとのくあひければ。さんちやう こくへと ひけく、  
かくふ、 わねへ ああくを ひく やねの あくよ ひれ あくよ ふと  
さる もの あり。さん ひととを ゆりて めのと ああもべ ひく  
あくべく うえん。 <sup>9</sup> うんと あれば ひく ひとのけんあの  
あくよ つける もの あくべく ひくの あくよ あく つをの ありて  
ひれ ひれよ ゆけと ひくべゆき、 わねよ さくられと ひくべ さくらり、  
ひく ひくべよ ひれを あせと ひくべ あすべ ゆゑあり。<sup>10</sup> あす  
ひれを あく あくべよ うくべる もの どくよ ひけく、 ひれ  
あくよ あくべよ うくべる もの うくよ ひく ひく  
うくべ あくべを ひくべ。 <sup>11</sup> これ あくべよ つけん、 おな  
くのひとびと ひくべ あり ふと あり さくらりと あがらはむ、 ひく、  
やこがと とくよ てんの みくわと せすべ。<sup>12</sup> されど みくわの  
あどひへ そとの くわかよ あがり うきよ そと あがき おぎと  
する こと ある べ。 <sup>13</sup> あく さんちやうよ、 ゆけ、 あんぢの あん  
べー ふとく あんぢよ あんぢと のくあひ ければ あくべく そ

トヨキナリのとく。

<sup>14</sup> 無すべてものりくよつりそのあうとめのねうをやまとふ  
をもとくらむ <sup>15</sup> そのでよきなりければねうされり。つりよ  
をぬめねよてめれよつりくへり。 <sup>16</sup> ゆくうよありてひとびと  
あくよよとりくうれするゆのをおわくつれきなりければぬす  
ことをみてそのあくよをねひりだへめらるゆめんことと  
とくこれをりゆくよくあへり。 <sup>17</sup> これあけんしやあせやよよりて、  
めれきぐらとめれとのきぐらひをうけめれとのやおひをねへ  
りとつそれじことよめあへり。

<sup>18</sup> 無すおのれのまもりよおわせりのをもとつりよめのとて、  
めれどもうふのきへんきへんべーとりひくよくあへり。 <sup>19</sup> あるゑと  
ゆくきくりてりひけみ、せんせのよ、りくよゆきくよふとお  
けれああくよおふくえん。 <sup>20</sup> 無すめれよりひけみ、きくねよん  
あああり、そとのとりよんねぐらあり、めれどあふげんのむす  
あふんめうべよあくらするところあり。 <sup>21</sup> あくでーのひきり、

きくよ、めれあぐのきとちくをわうむることをゆくよくあへんと  
りひければ <sup>22</sup> 無すめれよのまおひけみ、めれよあくらぐ、  
あくらるゆのよそのあせーゆのをわうむとす。

<sup>23</sup> 無すあねよのりひければでーくらむあくらぐへり。 <sup>24</sup> さてこよ、  
きくうきよおわらあるあくらおそりとあねあくよおわせらる、  
わどありよあすくりねくり。 <sup>25</sup> でーくらむめれよきくらりおそ  
とてりひけみ、きくよ、すくらまくら、めれとわうびんとす。  
<sup>26</sup> 無くめれどよ、あくらううすきゆのよ、あんぞおそくらゆと  
ゆの、おおとゆはとうきとくりすくめられればおわひよおざや  
うよあれり。 <sup>27</sup> ひとびとあくらうてりひけみ、ゆはとゆうき  
めれよあくらぐへこれりうあるひとぞ。

<sup>28</sup> つりよあすもうふのきへんひとのちよりくられればあく  
あよとりつうれするゆのあくらもくよりくらめれよあへり。  
そのまけまことまあまくらくとくられもそのまくらとあり  
えざるわどあり。 <sup>29</sup> さてこよ、めれよまけみをりひけみ、かまの

むすあよ、ヨレト ああひと あふの やくあり あるや。ときのよど  
りくじやくよ 可れとをせめんとて こまよき さあらう。<sup>10</sup> めれと  
おりもくよ ちあれと ああくーあくる おあくの ふくの われあり  
しげ<sup>31</sup> あくまじめ あすよ ねぐみて、ゆー可れとを おひりがきば  
あくの われよ いる ことを ゆるせふと ひけよ のけとの こあ  
くら。 <sup>32</sup> つゆよ われと、ゆでと あくよ ひりしきよ、われことど  
とくがけを もげしく わけくさり うみよ ひりそ みじの あうよ  
ああくり。<sup>33</sup> がくを やふもの ども あけて あらより くりこの すべ  
この ことと あくあよ とりくわれる もの はあり ことを りひ  
あく— けれど<sup>註</sup> こと、あらどうの もの あすよ あをんとて ひを  
きこり われを みて その さうひを あら まることを ねぐへり。

**第九章** 多すあねよ のり こくらして あくまよと ひくひー うめくよ、  
ひとびと とよよ あーかる ちうき やまを つれ まくら けれど<sup>註</sup> 多す  
かれの あくうを みて その ちうき やまよ の まめけくら、  
あよ、こくろやすうれ、あくちの つと ゆふされへり。<sup>34</sup> まくら まよ、

ある ああやくらの こくろの うちよ ひけよだ、この ひと  
かくを けぐす ことを ひぐり。<sup>11</sup> あす われと の おゆひを ありと  
ひけよ、あんぢと あんぞ こくろよ あーき おゆひを ひづくや。  
あんぢの つと ゆふされへりと、あくひん おきと あくけと ひふ  
ことひ ひげれ やすせ。<sup>12</sup> かく あんけの むすおせらひよ わくと  
つまを ゆふすの けふる ある ことを あんぢよ あくせんとす、  
つゆよ ちうき やまよ むらひて、おまよ、あとんを とりて あん  
ぢの ひくよ かくねと の まくらり。<sup>13</sup> さて その ひと おきと おの  
ねの ひくよ かくねー うべ。<sup>14</sup> ひとびと これと みて おそれ やく  
ゆくの ひと けんを あんけんよ かまくー かくを あがめへり。  
あす こく より すまそと まりたいと ひよ ものと みづぎとる  
やくー あよ ざすと みて、これよ あくぐくまと の まくひ けれど  
かれ からと あくぐへり。<sup>15</sup> その のち あす まりたいの ひくよと  
せんよ つくと まよ、おあくの みづぎと つと ある もの まく  
りと あす ゆくび その でー まかと とあよ せんよ つかへり。<sup>16</sup> せり

さひびと これをして その でーきゅう りひけり、 あんちうの  
 あーゆうへ あんぞ みのぎとり ねよび つと ある ものと とくよ  
 あふくすまち。<sup>12</sup> あす これを きもと ひけり、 すくやう ある  
 ものへ ひーゆよ よう あー、 ひど やめる もの のと とくよ あり。  
<sup>13</sup> され あむれを このま、 かくを このまと あむれへん りう  
 ある ひくろ あんせト ゆきと ああぐ。 ひぐ きくらへん ひぐーき  
 ものを あねく まめよ あとす、 つと ある ものを あねく まめあり。  
<sup>14</sup> その とき よはねの でー めれよ きくらへ、 されと せりさ  
 びとく 「あむーぐ」 がくドキ すくよ あくまの でーの がくドキ  
 せきくまへ あんせと ひひ けれど <sup>15</sup> あす の まみけり、 もあ  
 せの ともせら もあむととくよ をる あひど の まーひととを  
 えんや。 されど あむと めれと あり きくらへ ひ まみくらへん、 その  
 ときよ がくドキ すぐ。 <sup>16</sup> あく まれよ あむか まみれを あく  
 一月 まれよと つぐくま もの あー、 もー あうせば かーくらる まれ  
 きくらへ より とれと その やがれ あや あーく ある あり。<sup>17</sup> あく

かくま めもあくうよ あくまーき がくうーのを ひくよ もの あー。  
 もー あうせば あくうもりまけと あくうーゆ もれり せりあく  
 うも すくらん。 あくまーき がくうーゆへ あくまーき あくうよ  
 ひくろ べー、 ますねば あくう あくと トモリ あり。  
<sup>18</sup> あす これとの ことを かくら とくよ まよ、 ひくらの つうじ  
 きくら かれよ ひれかーと ひひ けれど、 ひぐ むすめ ひおや あせ  
 あじえん、 まれど きくらと めれよ てを つけ まおせば ひく べー。  
<sup>19</sup> あす まちと その でーと とくよ めれよ あくぐひ ゆきーぐ  
 まよ、 あくよ ねん あぐらを やめる まんあ うーうよ きくらと  
 あすの まもれ、 すそよ まもれり。<sup>20</sup> そく まくら まくらよ、 まね まく  
 その まくらよ まくらへ ひくらと ひひ けれど、 あり。<sup>21</sup> あす あり  
 まき めれを まく、 むすめよ、 こくろ やすうれ。 あんせの あん  
 う あんせを ひくらりと の まむひ けれど まんあ その とき あり  
 りくらり。

<sup>22</sup> あす つうまの ひくよ ひくろ あを あく もの ねよび ねよ

○ 九

三十六

物の さざなぐを そと、  
24 ありだけ もあめん あすまは あとす、  
さざりねる ありと ひの けれど ひとつと われを あさむく  
25 つらよ めれとを そとよ つげせしが あす うちよ ひりて その  
てをとりければ もあめ おまへり。  
26 この まこと あまねく その  
とちよ ひうめれり。

27 無すことをさるとき めぐら あらり われよ あらぐひ さけんを  
りあけまへ、だびでのあよ、これとを あそれと さすへ。28 無す  
のくよのりしよ めぐら あらり けれど われよ ひく さむひける  
れ、これと さく あー うること あらぢと あらすむら、われと  
さくらと、あらり さくらと りくり。29 さて われとの めよ てを  
つけと、あらぢとの あらする ことくよ あれと のくあひ けれど  
そのめあきまへり。30 無す われとを さびしく りおーめて ひひ  
けまへ、つまーんで されあゆ これをおこするあられと。31 されど  
われと ひぐま 無すの ことと ああねく その どちらよりひ あらせり。  
われと ひぐると せ みよ、ひとびと あくよよ とりづうねまへ。

おかーを名すよ つれ まぐり一ヶ あくす おひ  
めれりくり。<sup>33</sup> ひとびとこれをあやーみそりひけみ、いせらえら  
のうちよのよどやつて ゆきの などき ことひみくぎりま。<sup>34</sup> されど  
せりきいびとりひけみ、 ゆれ あくすの ウートよよりを あくすを  
ねひりどせるありと。

あるみおりりごとのさりものねとくわをのべつまへゆうすりやあひ  
そのやあひすゞものゆくふりをりゆせり。 <sup>36</sup> めれおわせりの  
ひとびとのゆりゆーあきひうとのごとくあゆをあらぢりぢりよ  
ありーゆゑよこれをしてあもねまよゆふト37 あくへり。  
でしらゆよのくよひけり、ゆりゆれゆれあことよおやー、  
されどもくくゆのすくよー。 <sup>38</sup> このゆゑよゆりゆれのまよ、  
ちうじくものをそのゆりゆれをよねくろやうよりのれ。  
多手あくゆのでしをよびこれよあけうのあくよをおさ  
ゆのけるをよあきてこれをゆりゆくよーゆりすゞものやあひ

すぐのひのひげをりゆきことをえめーむ。<sup>2</sup> おうかのひーやの  
あんこれあり、すあもちもトメよべてろとりふおもんおよびその  
きやうどりあんてれ、せべだいのむすみやこぶとそのきやうどり  
よはね、<sup>3</sup> ひとほとばるとうまい、とまとくぎとりあるまりたい、あら  
をいのむすあやこがおよびただい〔とあげくるをばら〕、<sup>4</sup> めあにあ  
おもんおよびあすをひくせーいためりおてのゆだあり。

<sup>5</sup> 無すこのあうあふふをつうせーこれよめのトてりひけゆく、  
ひどんのまくよゆくあうれ、またさまりあびとのむくよりる  
あうれ、<sup>6</sup> かどひをらえるのりくのうーあひくるひくとよゆけ。  
<sup>7</sup> あんぢとゆくとせ、てんのまうりどどくちうきよありとのべ  
つまくよ。<sup>8</sup> あくやめるものをりゆー、おもくるものをりくー、  
らりびゆうやまをきまくー、あくをおひりさせ。あんぢと  
あくじあーよううけくねがあるひとゆあくじあーよわどくせよ。  
<sup>9</sup> あんぢとおびよさん、せん、せんをようひーあくひくうびぶ  
う、うをきあすり、せうりあくつえをようりするあうれ。<sup>10</sup> まく

とくゆのひそのくべーをうべきよあれてあり。<sup>11</sup> ひげくよくも  
あらやむくよりくべ、そのとくゆのよかものひくねあくうを  
うげねてあんぢとげりげるまでそのりくよとどくあれ。<sup>12</sup> ひくよ  
りるときくありくうせよ。<sup>13</sup> もーそのりくよくべあんぢとの  
ねぐふやすまくそくよりくべん、もーようじすくべあんぢとの  
ねぐふやすまくねのれよかくべん。<sup>14</sup> ふねふくゆあんぢとを  
うけず、あんぢとのことくをきらすくべそのりくあるひくまち  
をきるときよあーのちりをもくへ。<sup>15</sup> これあくとよあんぢとよ  
つけん、おもくのひよそどむとごもらちのちんそのまちよりあ  
やすうじえ。

<sup>16</sup> きよ、ねあうみのあくよひくとをねくみぐひとくこれある  
ひくとをつうもす。ゆゑよへびのひとくのーく、はとのひとく  
おとあーうれ。<sup>17</sup> ひとびとよきとつけよ、そんめれとあんぢとを  
ひやうざよこくーのくそのくきりどうよおりてもちうくえ  
<sup>18</sup> あくじあんぢとくべくめよふびやうこくうのあくよひきりく

されど われどと ひとふよ おもうこと あらん。<sup>19</sup> ひとひととある  
ちとを こひすと ときりうよ あらん あわを のもんと ねゆひ こびくふ  
あれ、そひりあ べき ことくその とき あらんじよ さかをるべ。

<sup>20</sup> これ あらんじと みびくと ひかよ あらす、あらんじとの ちとの みくす  
あらんじとの うちよ ありて りくるあり。

<sup>21</sup> きやうざひへ きやうざひを こうせんと こまー、ちとの あを  
こまー、あじゆく おやよ そむきて ねそり めのと こらせ!  
めん。<sup>22</sup> あら あらんじと こだ あの ためよ すぐのひとよ あくす  
れん、されど きそり あそ こへ おのぶ ものへ すくひを うべ。  
<sup>23</sup> こね あらよ おりと ひと あらんじよ つけん、あらげふの むすあの  
のうれよ。され あらよ とよ あらんじよ つけん、あらめぐり つくせ  
きくら あくよ あらんじと いたえみの あち、むとを めぐり つくせ  
ぐるべ。<sup>24</sup> でーん その あー やうよ こえず、あらべん その ある  
トよ こえずる あり。<sup>25</sup> でーん その あー やうの ごとく、あらべん  
その あすトの ごとく あらべ されり。ひと ゆー りくの あすトを

べるぜぶよと おびあだまーと その りくの ものをや。<sup>26</sup> この ゆゑよ  
われと おもふ あられ、そん すぐと おあせれくる もれん あト  
れ、あらねくる もれん あらんじよ つぼー ことく あらまきよ のびよ、みよよ  
まよ わりと あらんじよ つぼー ことく あらまきよ のびよ、みよよ  
まよー ことく つばの うへ おり ひひ ひうめよ。<sup>28</sup> やー がを こうせ  
どく あー ひと めとでたとを ぢどくよ ねりと あらがー うる ものをお  
れよ。<sup>29</sup> すくめ あらんせあらち ありよと うよよ あらすよ。されど  
あらんじとの ちとの ゆゑー あらよ あらざれば その りちもゆ ちよ  
おくる こと あー。<sup>30</sup> あらんじとの やー しの けゆ まみ やぞくくふ  
あり。 <sup>31</sup> ゆゑよ おもふ あられ、あらんじとの オカクの すぐめ  
ありよ あきれり。<sup>32</sup> あれよ こひ ひとの あくよと これを ひひ あト  
もす ものへ これよ あら てんよ ひす こだ ちとの あくよ おりて  
かれを ひひ あら せん。 <sup>33</sup> されど ひとの あくよと これを ひひ あ  
ものへ これよ あら てんよ ひす こだ ちとの あくよ おりて

34 己れらちよおどやうをりれんすめよかはるとあるやうおゆふ  
あられ、ヨグさるやうおどやうをりゆふすめよあらす。やりをを  
りれんすめあり。<sup>35</sup> そんヨルひとをそのちよそむくせ、むす  
めをそのはよそむくせ、すめをそのちよそむくせん  
すめよそむくせがあり。<sup>36</sup> ひとのあざびとのおのれのりぐの身の  
あづえ。

37 ちくやほもを これ からゆりこも ものひ これよ つまよ  
38 す、 もすあや むすめと これ ありゆりこも ものひ これよ  
39 つまよ す、 40 あるおのれの おうじらを とりて これよ あくぐを  
41 さる ものひ これよ つまよ す、 42 いのちを うる ものひ これを  
43 うーあそん、 44 うめまいのちを うーあふ ものひ これを うべー。  
45 あるぢと うくる ものひ これ うくるあり、 これ うくる  
46 ものひ これ つうもーくる ものひ うくるあり。 47 おけんーやの  
あよ よりそ おけんーやを うくる ものひ おけんーやの ものひを

うけん。あるときひとのあよりとひとをうくる  
ものか、ひとのむくひをうけん。<sup>42</sup> それよりでこの  
よよりとこのちひさま ものとひとりよひやくある。そ  
のむくひのあせあべ、これあことよあるがよつぶん、  
そのものかむくひをうしめをさるべ。

第十一章

第十一章 つひよゑすおうかのでよめりドをもりければあち  
むくとそをそへゆきせりやうせんとそそとそをそりとそへり。  
2 よはねらうやなありそきりすとのなきをかくらるとよよ  
そのでーそつうそーとゆれよひけり、3 まくるべきゆめに  
ああくあらり、あらりやうのゆめをまうべがく。4 無すこく  
こそりひける、ゆまそよはねよあらぢとくかくとそろそる  
とそろのことをつげよ、5 すきもちめくとくみゆるやうよ  
あり、ちんぐくあらき、らひびやうやうくまくあり、つるがく  
きく、ちーぐるゆめにりきぐくとくれ、あるあげーきゆのまく  
さりそひのねとくわをひひうめくれたり。6 ふねよそゆせう